

講演会講師論稿

平成一八年主催講演会について

平成一八年の主催講演会は、前年に引き続き三月、五月、十月の三回にわたり開催されました。

春三月は、本会理事の恒松栖氏が、「湯の花小屋のひみつ」と題して、国指定重要無形民俗文化財である「湯の花」生産の仕組みを、湯の花小屋構築の工夫も含めて説明。スライド映写を交えた豊富な資料を駆使しての説明は、系統的かつ具体的に理解し易く、今更のごとく別府温泉文化の持つ奥深さとその素晴らしさを、改めて会員に印象づけた。

五月の講演は、同じく理事の矢島嗣久氏と副会長の三重野氏が、石垣原の合戦について、その史跡と合戦の経過を、スライド（矢島）と解説（三重野）を交えながら進めた。ことにスライドによる史跡の解説は、事前に公民館入り口フロアに展示した大分県先哲資料館提供の関係パネルとともに講演内容に臨場感をもたらした大変に効果的であった。

十月は、民俗学専門の別府大学講師（元先哲資料館副館長）小泊立矢氏を迎えて「大分県の石造文化財について」と題し講演を頂いた。主に県内各地の石塔・石仏を中心に、先生が

収録した多くの映像をスライドで映写しつつ講演され、石の文化の宝庫と言われる大分県の石造文化の奥深さを実証された。

なお先生方には次頁如何に講演にかかわる貴重な論稿を寄稿していただきましたのでご精読下さい。

研修部



恒松 栖先生



小泊立矢先生